

「市制施行記念フォーラム：恵庭宣言」

私たちは、今、これまで経験したことのない新たなステージに立っています。

本格的な超高齢・人口減少社会への対応が最重要課題であることはもとより、パンデミックとなった新型コロナウイルス禍により全ての分野において新たな社会システム（ニューノーマル）の実践が私達に求められています。コロナの教訓を踏まえた新しい時代への対応は、直接住民に接している地方自治体こそが迅速かつ適切に対処し行動しなければなりません。

アフター・コロナでは大都市とつながりを持ちつつ、地方の豊かな自然や食に囲まれての働きや学びといった快適な暮らしを実現できる「新しい地方の時代」がくると考えます。

本フォーラムではこれからの「新しい地方の時代」に向けて、地方戦略としてどう組み立て、どう行動するかを「共生」という切り口で多様なニューノーマルを探求しました。

私たちのまち恵庭は潤いのある花のまちです。また、全国に名高い読書のまちであり、子育てのまちです。こうした恵庭の特長的なまちづくりは、ここで暮らす市民の手によって進められました。半世紀以上前、全市的に花壇コンクールを始めた市民やニュージーランドの美しい庭に学び、ガーデニングの豊かさを知った市民が「花のまち恵庭」の種を蒔きました。図書館では数多くの市民ボランティアが読書活動を支えています。市民によるまちづくりは、この恵庭市50年の歴史であり、先人から受け継がれている恵庭の財産です。

私たちはこれまでの伝統を引き継ぎながら、一つ目には人口減少という大きな問題にどう向き合うのか、二つ目にはコロナ危機によって生じた様々な変化をどう受け止め、新たなまちづくりを考えるのかを頭に置きながら行政スタイルを今一度見直し、自治体を取り巻く様々な今日的課題の解決につなげていきたいと考えます。本フォーラムがそうした取組への一つのきっかけとなることを願ってやみません。

本フォーラムではサッポロホールディングス株式会社顧問の高島様による基調講演及び福井県立大学学長の進士様による特別講演をいただき、アフター・コロナの時代にあつてのこれからのまちづくりについて大きな示唆がありました。その後、山積する地域課題の中から4つのテーマを取り上げて議論を行いました。その全てが昨年から今も続くコロナ危機による社会の変革を踏まえた議論と提言になりました。

一つ目は、「交流による共生のまちづくり」です。
コロナの影響で観光消費等が激減し地域経済の再建が急務です。アフター・コロナに適応した新たな交流のカタチが必要です。キーワードは「多様なライフスタイルに対応した持続可能な地域づくり」、ポイントは地元の地域に対する深い洞察と誇りです。

二つ目は、「多文化との共生のまちづくり」です。
外国人と接する機会の増加や社会を支える外国人材への期待を踏まえ、多文化共生の取組が急務です。キーワードは「相互理解とコミュニティ」、「長い眼で見た継続的な実践」、ポイントは誰もが快適に暮らせるまちづくりです。

三つ目は、「花や緑との共生のまちづくり」です。
花や緑などの地域特性や自然が有する機能や魅力を活かして、市民と協働のまちづくりを推進することが重要です。キーワードは「グリーンインフラと市民力」、ポイントはSDGsを踏まえた未来へつなぐ市民主体の取組と持続可能なまちづくりです。

四つ目は、「子どもと地域の共生のまちづくり」です。
次代を担う子どもは地域の宝であり、健やかに育つ地域づくりの取組が重要です。キーワードは「健やかな地域とのつながりと多様性」、ポイントは地域の特色を活かした豊かな遊びや体験などを通じて、子どもと保護者が地域の中で多様なつながりを持ちながら生きる力を育むまちづくりです。

アフター・コロナなどの新時代においていつまでも全ての人が心豊かに幸せを実感できる社会を実現するため、様々な共生のまちづくりを市民・事業者・行政が共に考え、共通理解を醸成しながら推進することが未来への道と考えます。

このことを全ての参加者とともに確認し、本フォーラムからの「恵庭宣言」といたします。

2021年7月11日

恵庭市制施行50周年記念フォーラム